

いのちを植える。未来を起動する。

K SALON

いのちのガーデン

東山
動植物園

4/25

2026

土

OPEN

薬用になる植物等を研究する中国発祥の学問「本草学」。
「薬草」は自然界から得られる貴重な資源であり、
本草学者の伊藤圭介やその先人たちは、薬草が持つ効能を活かして
病の予防や治療を行ってきました。
星が丘門から続く「薬草の道」のゴール、中国産植物園林に
人々の知恵や知識を伝える場として「いのちのガーデン」を整備しました。



シンボルツリー／キササゲ(花・実) ※1



K SALON(ケイスケサロン) ※2



いのちのガーデン ※2

キササゲ(木大角豆・楸・梓)

別名ライデンボク(雷電木)。古い時代に薬用として中国から伝わってきた。種子や根は生薬として腎臓病などに用いられる。宋代(960~1279)、動植物の事を書いた中国の事典には「梓(キササゲのこと)は百木の長」で、庭にこの樹を植えれば家に落雷しないと書かれている。

※1 イメージ ※2-3 完成予想模型



「いのちのガーデン」デザイン

矢野 TEA



有限会社ナック代表取締役。フォレストファーム デザイナー。2004年エリザベル女王陛下のガーデンショーと言われる世界最高峰のチェルシーフラワーショー参加、ベストシティーガーデン賞(最高賞)受賞。

伝説の本草学者と「いのちのガーデン」



名古屋出身の
植物学者

伊藤 圭介
いとう けいすけ

江戸末期から明治初めにかけて活躍した日本の植物学を築いた一人で、日本で最初の理学博士。「おしべ」、「めしべ」、「花粉」という言葉を生み出した。「いのちのガーデン」には、飢饉から人々を救うために、伊藤圭介が著した「救荒食物便覧」を参考に、いのちを救う植物が植えられています。

学位取得直後の伊藤圭介 / 1888年(明治21年)5月16日撮影 / 名古屋市東山動植物園所蔵

薬用植物について学べる「薬草の道」を整備し、「いのちのガーデン」を寄贈します。

中北薬品株式会社は、業業を通して緑のある「伊藤圭介」の顕彰、功績を普及・啓発していくことを目的とした伊藤圭介普及啓発サポーターとして、東山動植物園とともに、伊藤圭介の普及啓発活動に協力しています。



施設の
設置場所
東山動植物園

〒464-0804 名古屋市千種区東山元町3-70 TEL:052-782-2111(代) 公式ウェブサイト <https://www.higashiyama.city.nagoya.jp/>

●開園時間 / 9:00~16:50(入園は16:30まで) ●休園日 / 毎週月曜日 ※詳細は公式ウェブサイトでご確認ください。

●入園料 / 大人:500円・中学生以下:無料 名古屋市在住の65歳以上の方:100円 ※植物園には、地下鉄東山線「星ヶ丘」駅が便利です。

○作庭デザイン / (有) ナック(矢野TEA) ○企画・編集 / 文化発掘ユニット 手仕事組 ○造園 / (株) 柴田造園 ○植栽苗圃 / 吉田篤 ○設計 / (有) 宇野敏夫設計工房
○ユニット施工 / (株) ボロニア ○サイン / サインクラフトアンドウ ○高津ゆい ○企画統括・お問合せ先 / (株) 新東通信 E-mail: sharata@shinto-tsushin.co.jp TEL: 090-8675-9349(原田)
※掲載の写真是全てイメージです。

東山動植物園
Higashiyama
ZOO & BOTANICAL
GARDENS

©Nagoya City